

1. 評価対象事務事業		シート作成日	平成25年7月17日
事業名	出産前支援事業	担当課・係名	スポーツ健康課 健康増進係
総合計画実施計画事業 (認定番号・事業名)	—	事業番号	7
行革大綱実施計画事業 (細目コード・事業名)	—	事業開始年度	H23に母子保健から分離

2. 事業の概要

目的 (何のために)	妊娠中の健康についての支援を始めとし、妊婦に対するやさしさや思いやりを育てる				
対象 (誰を・何を)	妊婦とその家族、町立中学校3年生全員				
内容	妊婦に対して母子健康手帳を交付するほか、妊娠中の健康づくりのため、妊婦や家族を対象に各種教室等を開催し、指導、相談を行っている。また、妊婦健康診査の実施に併せて重要性を周知するとともにマタニティマークの普及を図っている。 中学生に対し思春期ふれあい事業を実施し、妊婦に対するやさしさや思いやりを育てる。				
根拠法令・条例等	母子保健法9条～11条（妊産婦への保健指導）15条（妊娠の届出）16条（母子健康手帳の交付）				
執行体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他				
	単位	平成23年度 (決算)	平成24年度 (決算見込)	平成25年度 (予算)	
事業費	直接事業費 (a)	千円	1,329	624	514
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円	1,131		
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	198	624	246
	職員人数 (概算職員数)	人			0.32
	人件費計 (b)	千円			1,390
総事業費 (a)+(b)	千円	1,329	624	1,904	
事業費内訳 H 25 年度	報酬費：162千円 消耗品費：17千円 母子健康手帳：86千円				

3. 指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 (指標名)		単位	平成23年度 (実績値)	平成24年度 (実績値)	平成25年度 (見込み又は計画値)
対象指標 (対象者数等)	① 母子健康手帳交付数	人	213	218	200
	② 町内中学3年生生徒数	人	265	260	260
活動指標 (活動量)	① マタニティスクール実施回数	回	22	17	20
	② 思春期ふれあい体験実施回数	回	2	2	2
成果指標 (達成度等)	① マタニティスクール延べ参加者数	人	224	136	105
	② 思春期ふれあい体験参加者数 (実数)	人	258	251	251

4. 事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か	理由	<input type="checkbox"/> 妥当 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね妥当 <input type="checkbox"/> 変更の必要あり <input type="checkbox"/> その他 母子保健法に基づき母性並びに乳児及び幼児の健康の保持及び増進を図るために実施している。
	・実施手段は妥当か	理由	<input type="checkbox"/> 妥当 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね妥当 <input type="checkbox"/> 改善の必要あり <input type="checkbox"/> その他 妊婦健康診査については、県内の他市町村と同様に専門機関への委託事業として実施している。
成果	・意図した成果が得られているか。	理由	<input type="checkbox"/> 得られている <input checked="" type="checkbox"/> おおむね得られている <input type="checkbox"/> 得られていない <input type="checkbox"/> その他 思春期ふれあい事業は、町立中学校の全3年生を対象者に行っている。参加者のアンケートを集計すると「妊婦」に優しく、「いのち」を大切にすることを考える場となったと認識できる。
	・コストに対して効率的か	理由	<input type="checkbox"/> 効率的 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね効率的 <input type="checkbox"/> 非効率的 <input type="checkbox"/> その他 マタニティスクールは出生数を鑑み、年間を通して3コース（春、夏、冬スタート）の集中講座として、効率的に開催している。
効率性	・コストの削減等を図ったか	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 図った <input type="checkbox"/> 図られていない <input type="checkbox"/> 図る余地は無い <input type="checkbox"/> その他 マタニティスクールのプログラムの見直しにより、統合、または他事業利用などを進めた。
	担当課による評価	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある <input type="checkbox"/> B 事業の一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> C 事業の抜本的な見直しが必要 <input type="checkbox"/> D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	評価理由 母子健康手帳交付時の面接から早期に、要支援妊婦等のハイリスク者も発見され、出産前からの対応ができています。

5. 改革・改善の方向性（平成 26 年度以降）

① 改革・改善への取り組み	母子健康手帳交付時に、保健師が面接しマタニティスクールの紹介のほか、大磯町の母子保健情報が気軽に得られるように、情報を携帯メールで配信している。 出産前の就業率が高く、年間事業として開催日が決定している町の教室に参加できないとの声も聞かれるので、開催日時について参加しやすい柔軟な対応が求められている。
② 平成26年度に着手する事項	マタニティスクール開催の周知方法について検証・検討し、新たな取組みをスタートさせる。
③ その他（課題、調整事項等）	

6. 平成26年度事業への取組み状況（改善内容等）

マタニティスクールについては、就業している方も参加しやすい開催日の設定や、二宮町との共同開催についても検討する。併せて、開催案内を知らせるための方法として、母子保健情報の携帯メール配信を周知する。 思春期ふれあい事業については、中学校との連携を強化し、学校と一緒に検討しながら継続実施していく。
--